



令和8年3月9日

令和7年度学校評価アンケート 結果と分析

京都市立北総合支援学校

◇ 実施期間 令和8年1月26日（月）～2月6日（金）

◇ 対象者・回答率

	教職員	保護者			児童生徒		
		小	中	高	小	中	高
対象者数	158人	92人	58人	82人	92人	58人	82人
		232人			232人		
回答者数	149人	56人	37人	45人	5人	8人	36人
		138人			49人		
回答率	94%	61%	64%	55%	5%	14%	44%
		59%					

(参考) 前期の回答率

	教職員	保護者			児童生徒		
		小	中	高	小	中	高
対象者数	161人	92人	59人	80人	92人	59人	80人
		231人			231人		
回答者数	152人	72人	42人	49人	8人	11人	35人
		163人			54		
回答率	94%	78%	71%	61%	9%	19%	44%
		70%			23%		

◇分析・表示方法

- 4つの選択肢（教職員：「よくできている」「大体できている」「あまりできていない」「できていない」 保護者・児童生徒：「はい」「どちらかといえば、はい」「どちらかといえば、いいえ」「いいえ」）の総数に対して、「よくできている」と「大体できている」「はい」「どちらかといえば、はい」を合わせた“肯定的な回答”の数値を、保護者・教職員・児童生徒や、各項目間で比較し、分析します
- 成果や課題を把握しやすいように、90%以上を**水色**、80%未満は**黄色**で表示します

教職員・保護者

(0) 全体 ※大項目内の平均値

めざす学校像	教職員		保護者	
	前期	後期	前期	後期
(1) 子どもにとって安全・安心で生き生きと活動できる学校	97%	97%	97%	99%
(2) 子どもたちが楽しく学ぶ学校	95%	97%	85%	90%
(3) 保護者からも地域からも信頼される学校	97%	98%	93%	95%
(4) 笑顔いっぱいの学校	95%	95%	97%	96%

前期と比べて、保護者の回答率は10ポイント程下がりましたが、昨年度の2回目と比較すると大きく上がっております（昨年度前期約45%、後期約40%）。

全体として見ると、どの項目も肯定的な回答がほとんどでした。これは、本校の取組が概ね、教職員からは自信を持って取り組んでいる、保護者からは好意的に受け取られている結果だと考えられます。

「(2) 子どもたちが楽しく学ぶ学校」については、保護者の回答が他の項目と比較して、数値が下がっております。これは後でも述べますが、否定的な回答が多かったというよりも、「わからない」の回答が他と比較して多かったためです。ただ、後期にはポイントが上がっており、1年間を通しての学校としての取組が評価されているものと考えます。

(1) 子どもにとって安全・安心で生き生きと活動できる学校

教職員			保護者		
	前期	後期		前期	後期
1 校内や教室は、清掃され、衛生的である	96%	96%	1 学校は、子どもが安全・安心に学べる場(衛生面、校内環境面、防災面等)になっていますか	96%	99%
2 学校は、教材や備品の整理整頓、安全・事故対策、防災対策等を実施している	96%	95%			
3 学校は、子どもの健康維持や体力づくり、心の安定に関する取組を適切に行なっている	98%	99%	2 学校は、子どもの健康維持や体力づくり、心の安定に関する取組を適切に行なっていますか	98%	99%

この項目では、全ての設問において、前期と同様に大多数の教職員・保護者が肯定的な評価をしています。日常からの清掃や毎月設定している環境整備日、学校安全日等の取組を継続してきたことで、衛生的かつ安全な学校であると評価されているのだと考えられます。

教職員の設問3、保護者の設問2についても肯定的な回答が多くを占めています。多くの子どもが毎日元気に登校しています。毎日登校することが難しい子どもについても、自身の体調に合わせて、気持ちと向き合い自身のペースを考えたりしながら、登校したり学校以外の場所で学習に取り組んだりしています。そのようなことを踏まえた結果、健康維持や体力づくり、心の安定に関する取組についての高評価につながっているのだと考えられます。

保護者は安心して子どもたちを学校に送り、教職員は自信を持って子どもたちを受け入れる、そのような学校であり続けられるよう、取組を継続していきます。

(2) 子どもたちが楽しく学ぶ学校

教職員			保護者		
	前期	後期		前期	後期
4 学校は、子どもに関する願いと実態をもとにした目指す姿の実現に向けて教育内容を設定し、指導計画を立て、実施に努めている	95%	99%	3 学校は、子どもの目指す姿の実現や可能性の拡大のために、指導計画や指導内容を適切に設定し、子どもが楽しく学べる授業や行事等を展開していますか	94%	96%
5 学校は、子どもが主体的に考え、工夫し、他者との関わりの中で、生き生きと楽しく学べる教育活動の推進に努めている	96%	97%			
6 学校は、子どもの可能性が広がり、自己有用感が高まるように、役割活動や行事等での活躍の場を適切に設定している	98%	98%			
7 地域資源を活用した教育活動が、子どもの主体性や社会性の育成につながっている	92%	97%	4 学校での地域資源を活用した学び(地域の施設や店舗での体験交流活動等)が子どもたちの成長につながっていると思いますか	85%	91%
8 学校は、子どもたちの成長のために、ICTを活用した授業や取組を適切に実施している	95%	96%	5 学校は、子どもたちの成長のために、ICTを活用した授業や取組を適切に実施していますか	76%	83%

教職員・保護者ともに、全体として本校の学習について高い評価となっております。「個別の包括支援プラン」に基づいた学習や取組が充分になされている結果だと考えます。

教職員の設問7と8、保護者の設問4と5の地域資源やICTを活用した教育活動については、前期と比較して差は縮まっていますが、特にICTの方に関しては依然として大きな差があります。地域資源の活用に関する取組は、後期に入り校外学習等で地域資源を活用する学習が前期と比べて増えたことで、保護者の数値が上がったと考えられます。ICTに関する取組は、参観や学校祭等で活用している場面を見ていただいておりますが、限定的で実際にどこまで活用できているかが分かりにくいといった意見もあります。今後も引き続き、具体的な実践やそれに伴う児童生徒の成長等を発信したり、家庭等でのICT活用の拡充を進めたりすることを通じて保護者の数値が上がっていくことを期待します。

また、様々な工夫やチームで取り組める総合支援学校の特徴を生かして、もっと子どもの「できる」を発揮できるような取組を望む声もあります。現状に満足せず、子どもの可能性を広げる取組を探っていきたいと考えます。

(3) 保護者からも地域からも信頼される学校

教職員			保護者		
	前期	後期		前期	後期
9 学校は、保護者や地域社会への情報共有(広報活動・参観など)を適切に行なっている	99%	99%	6 学校は、保護者や地域社会への情報共有(学校だよりやすぐー等による学校の様子発信、参観日の設定等)を適切に行なっていますか	98%	96%
10 教職員は、適切な言葉遣いや態度で子どもや保護者に接している	95%	95%	7 教職員は、適切な言葉遣いや態度で子どもや保護者に接していますか	95%	97%
11 教職員は、子どもや保護者の思いを受けとめ、誠実に対応している	99%	100%	8 学校は、子どもや保護者の思いを受けとめ、必要に応じて保護者・福祉・医療・行政などと連携して対応していますか	87%	93%
12 学校は、保護者・福祉・医療・行政などと適切に連携して、状況や課題を把握し、対応している	96%	98%			

この項目についても概ね肯定的な評価となっております。これは、保護者や児童生徒に対して、教職員が普段から真摯に対応している結果だと思えます。保護者の設問8については、前期よりも数値が上がっております。本校では、子どもの課題に対して、学校と保護者だけでなく、子どもに関係する様々な機関と連携してケース会議を開催したり、主治医と連携したりすることに対して、スムーズに動くことができています。そういったことが、数値の上昇に繋がっていると考えます。

(4) 笑顔いっぱいの学校

教職員			保護者		
	前期	後期		前期	後期
13 学校は、明るい雰囲気、教職員や子どもの笑顔があふれる場である	98%	98%	9 学校は子どもや教職員の笑顔があふれる場となっていますか	97%	96%
14 教職員は、人権意識を高く持ち、多様な価値観を認め合う姿勢を持っている	96%	98%			
15 学校は、教職員が働きがいを感じられる職場づくりを進めている	91%	91%			

大多数の教職員・保護者が、本校は明るい雰囲気、笑顔があふれる学校だと感じていることが分かる結果となりました。めざす学校像に挙げている「笑顔いっぱいの学校」がほぼ達成されている証と捉えています。今後も笑顔があふれ続ける学校でありたいと思います。

教職員の設問15では、約1割の教職員が「あまりできていない」「できていない」と回答しています。学校全体が明るい雰囲気だと感じてはいるが、自身の働きがいとは別だと感じている教職員が一定数いるということが分かります。今回は教職員の自由記述が少なかったため、詳細については分かりませんが、それぞれが望む業務内容や担当で働けていない、周囲のサポートが得られにくい、といったことが理由として予想されます。本校には非常に多くの教職員が勤務しています。全員が希望する担当や業務を担い、働くということは難しいですが、周囲からのサポートを丁寧にしたり、気軽に悩みや相談を話したりすることが日常的にできるような風通しのよい職場環境をつくり、これまで以上に働きがいを感じられる職場を目指していきたいと考えます

(5) 自由記述 (保護者)

多くの高評価や温かいご意見をいただき、今後の励みになります。また、ご指摘や今後の改善点もいただいております。今回いただいた意見については、校内で検討し、北総合支援学校がより良い学校になっていけるようにしていきたいと思います。

(いただいた意見の中から一部、要旨抜粋して記載しております)

- 親から見るとこの1年間で本当に成長したと感じている
- 安心できる環境の中、日々楽しく学校に通っている
- 工夫と試行錯誤がずっと続く授業や取組、本人の可能性を広げる取組に感謝している
- 子ども自身が理解できる指示や支援、細やかな配慮がなされている
- 工夫された学習内容や構造化された環境設定がなされている
- 教職員、バスの乗務員等、みんな元気で大きな声で挨拶を交わして頂けて、行くたびに気持ち良く過ごせている
- 子どもが楽しく学校に行けているのは先生方や関係各所の皆様のおかげだと感じている

▽各家庭の環境や事情等を考慮してもらいたい

▽「すぐーる」の添付忘れなどのミスを減らしてほしい

▽保護者をもっと気軽に話しかけたり、質問したりしやすい雰囲気望む

▽制約も多いが、せつかく体制の整っている支援学校ですから、危ない！できない！ではなくどうやったらできるかなあと本人の思いに耳を傾けてこれからも活動の幅が広がることを期待している

▽STなど専門職の指導の機会があるとありがたい(現状、あるのであればフィードバックがほしい)。足りないのであれば専門職の数を増やして欲しいです

▽教員の数が足りなく、支援体制に不安を感じる時がある

▽特別支援教育経験の少ない教職員の方もおられるため、教職員間の知識差が気になる

▽医療的ケアがあるから「できない」のではなく、「できる」方法を一緒に考えていきたい

▽教員の専門性向上を期待する

▽事業所見学等では丁寧に対応してほしい

▽SCの日程を毎月わかりやすく教えてほしい